

保護者様

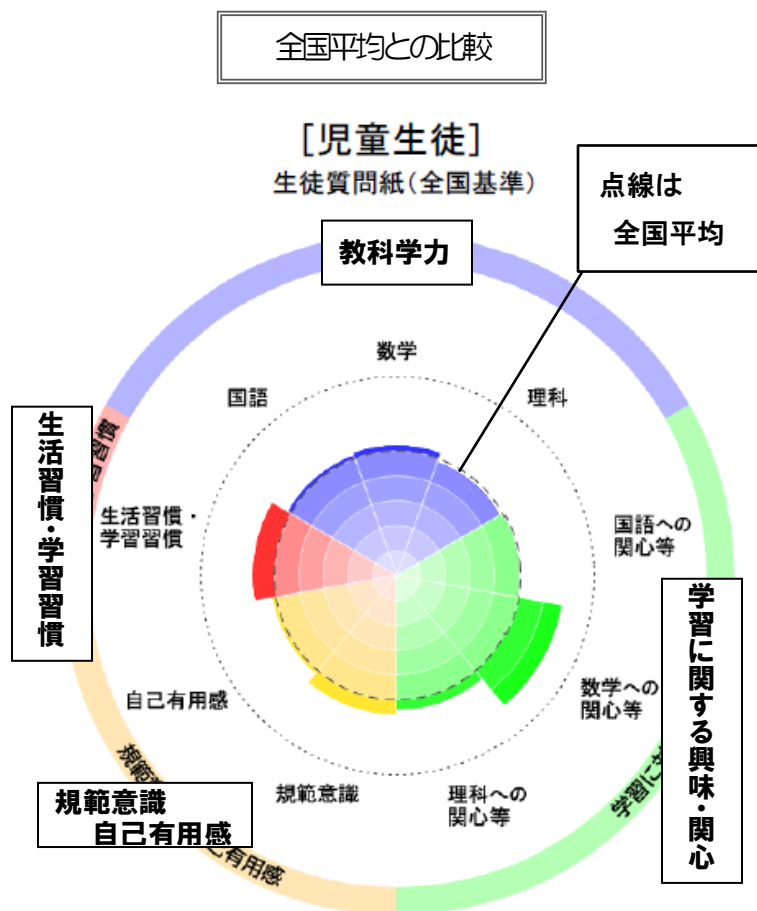
令和4年11月11日

豊能町立吉川中学校
校長 遠藤 克俊

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

晩秋の候、保護者のみなさまには益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。さて、4月19日（火）に、3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。今年度は、国語、数学、理科の3教科の学力調査と、学習状況調査となりました。その結果につきまして「国語」、「数学」、「理科」、「学習状況（生徒質問紙より）」のそれぞれについて分析した結果を、下記のようにご報告します。

記



【概要】

左図（少し見にくくて申し訳ありません）は、今回の調査で、「教科学力（国・数・理科）」と、学習状況調査から読み取れる「学習に関する興味・関心」、「生活習慣や学習習慣」、「規範意識・自己有用感」について、全国平均との比較で示したものです。

「教科学力」は3教科とも全国平均とほぼ同等でした。また、「学習に関する興味・関心」では、数学がずば抜けて高いのが特徴的です。「生活習慣・学習習慣」は全国と比べてもかなり高い好結果でした。そして注目したいのが「規範意識・自己有用感」の結果で、これまで低い傾向にあった領域ですが、今年度は全国と比べても高めの結果となりました。

(1)「国語」について

○全体の結果概要

「我が国の言語文化に関する事項」と「読むこと」の問題において、全国平均と比べ正答率が高く、無解答率が低かったです。しかしながら、これらを除く問題で全国平均を下回る正答率であるという課題がありました。

〈正答率が全国と比較して特に上回っている問題〉

4三「書き直した文字の『と』の書き方について説明したものとして適切なものを選択する」
漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方について、理解しているかを問う問題です。

〈正答率が全国と比較して特に下回り、無解答率も高かった問題〉

1三「スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く」
自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことについて、理解しているかを問う記述問題です。

〈正答率が全国と比較して特に下回っている問題〉

3一「『陽炎みたいに揺らめきながら』に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する」
表現の技法について、理解しているかを問う問題です。

〈無解答率が全国と比較して高かった問題〉

1一「スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す」
聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することについて、理解しているかを問う問題です。

○考察

正答率が全国と比較して特に上回っている問題は、書写の学習での知識の習得が成果として出たものと考えられます。

正答率・解答率ともに全国と比較して下回った問題は、自分の考えを表現するときの工夫について理解度が低いという結果となりました。発表をする機会にこうした技術についても意識付けができるように力を入れたいです。

正答率だけが特に低かった問題は、国語表現についての知識を問う問題でした。特に韻文作品の学習において、こうした知識をしっかりと習得してほしいです。

解答率だけが低かった問題は、話すときや聞くときに効果的な表現の工夫ができるかという問題でした。

全体的にコミュニケーションを取る際の表現の力に課題を感じます。

今後、学校教育としましては、これまでの言語活動に磨きをかけ、豊かな言語使用者として成長していけるよう、「読む」「書く」「話す・聞く」活動を進めていきます。

(2)「数学」について

○全体の結果概要

正答率では、14問中の半数にあたる7問で正答率が全国平均を上回りました。また4領域のうち3領域で正答率が全国平均を上回りました。無回答率は、14問中の5問で無回答率が全国平均を下回りました。以下に正答率と無回答率について全国平均と比較をしながら分析しています。

○特徴的な設問

<正答率が全国と比較して大きく上回っている問題>△は、本校と全国との正答率の差
問題8(1) 与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く △13.1ポイント
問題2 連立二元一次方程式を解く △9.4ポイント

<正答率が全国と比較して大きく下回っている問題>▽は本校と全国との正答率の差
問題1 42を素因数分解する ▽10.3ポイント
問題7(1) コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、
選んだ理由を説明する ▽10.1ポイント

<無回答率が全国と比較して最も下回っている問題>△は、本校と全国との無回答率の差
問題9(1) 証明で用いられている三角形の合同条件を書く ▽13.1ポイント

<無回答率が全国と比較して最も上回っている問題>△は、本校と全国との無回答率の差
問題6(2) 差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する
△5.8ポイント

○考察

「数と式」「図形」「関数」の領域において、全国の平均正答率と比べて高い正答率でした。特に問題2や問題8(1)が高い正答率でした。また正答率が全国の平均正答率を上回った7問のうち、知識・技能の観点の問題が5問ありました。このことから、基本的な知識や技能が身につけていることが考えられますが、知識・技能の観点である問題1が全国の平均正答率を大きく下回っていることから、領域や単元によって学習内容の習得に抜け落ちがないかを、生徒自身が確認しながら基礎学力の定着をはかる取り組みが必要であると考えられます。一方で「データの活用」の領域においては正答率が全国平均と比べて6.0ポイント低くなっており、他の領域に比べると苦手な分野になっている傾向が見受けられます。上に記した<正答率が全国と比較して大きく下回っている問題>の問題7(1)も「データの活用」の領域でした。データを整理し、その結果から傾向などを読み取って判断し記述できるようになることが課題の1つとして考えられます。

以上のことから、これまでのように基本的な知識と技能の定着をはかりながら、生徒がこれまでの学習のなかでの知識や技能を確実に習得できているかどうかを振り返りながら、次の学習に進んでいくことができるように指導していくことが必要と考えられます。

また、「データの活用」の領域の学習内容の定着に課題があることから、データの特徴や傾向を数学的な根拠によって判断しながら考察し、説明することができるような授業での取り組みをおこなっていきます。特に、身近にある様々なデータの処理やそれら考察する機会を授業の中で取り入れていくことで、データを活用するための数学的な力を育てていきたいと思います。

(3)「理科」について

○全体の結果概要

平均正答率が全国平均10.4%、本校の平均10.1%、大阪府平均9.8%であり、理科全体としては全国よりわずかに低い結果でしたが、問題ごとに見ると全国よりも正答率がかなり高い問題がある一方で、10ポイントほど低い問題もありました。また、標準偏差が全国4.1、大阪府4.2、本校4.4となっており、生徒間のばらつきがやや大きいとみることができます。

○特徴的な設問

・正答率が高かった問題の例

問題3(1) / +10.2ポイント 化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる問題(知識・技能:選択式)

問題5(1) / +13.7ポイント 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる問題(知識・技能:選択式)

・正答率が低かった問題の例

問題4(1) / -8.4ポイント 節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる問題(思考・判断・表現:記述式)




問題7(2) / -13.1ポイント 実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる問題(思考・判断・表現:選択式)

○考察

問題5(1)は全国的に正答率が突出して低い問題ですが、本校は全国の2倍に迫る正答率となりました。実験における条件制御等については比較的身につけていると考えられます。また、一つ一つの知識が全て正確に身につけていなければ正解にはたどり着けないので、その点は強いものと思われます。問題7(2)のような問題は、説明図とデータの数字をそれぞれきちんと読み取った上で、全体を見通すことによってはじめて理解できますので、結果を振り返ったり、話し合ったりといった、実験全体の過程に目を向けることに授業の中で取り組むことが必要になります。知識及び技能と、身近な現象とを関連付けて探究する学習において粘り強さを発揮し、日常生活における場面のなかでいくつかの事象をつなげて考えてみるなど、多面的に物事を考える経験を増やしていくべきと思われます。

(4)学習状況調査について

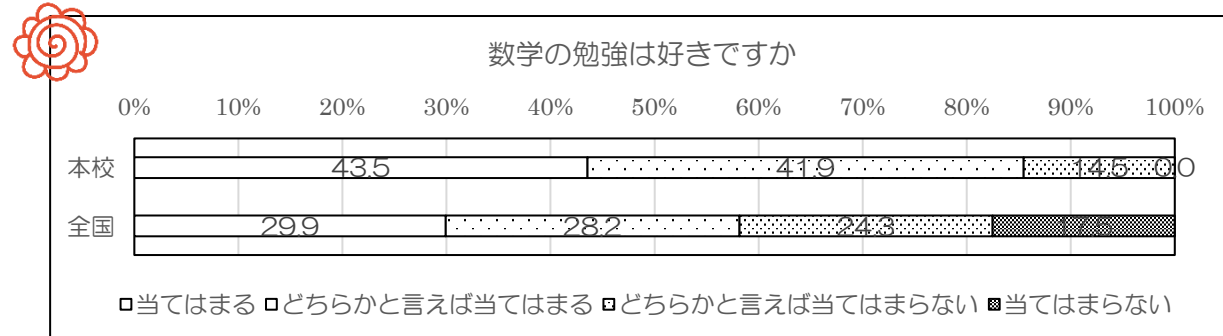
学習状況調査（生徒質問紙）について、「学習に関する興味・関心」、「生活習慣や学習習慣」、「規範意識・自己有用感」、そして「その他」の領域ごとに、特徴的な項目を示しながら報告いたします。（特に特徴的な項目については、グラフもつけています）

「○」は肯定的回答が全国を上回った質問、「●」は全国を下回った質問
 「△▼」のついた数値は、肯定的回答の本校と全国とのポイントの差です
 グラフは「」がかなりの好結果、「」は好結果、「」は課題であるという意味です。

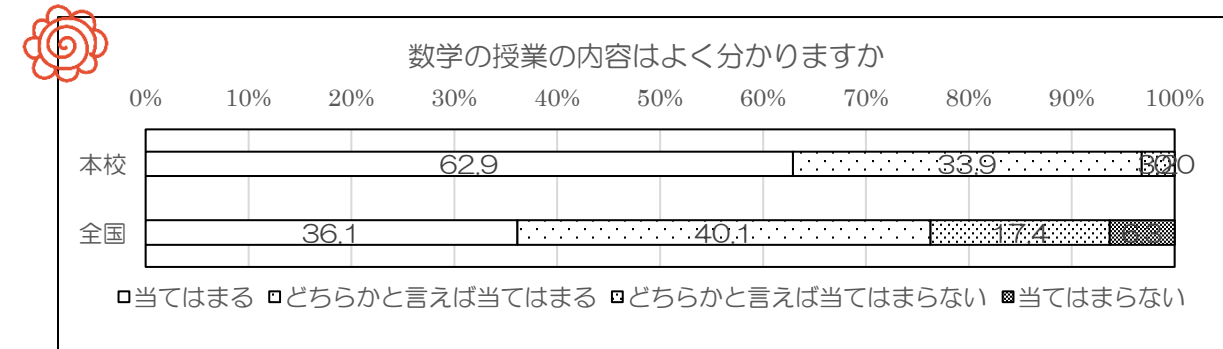
《学習に関する興味・関心について》

※学力調査の教科であった「国語」「数学」「理科」についての質問の結果を中心に、ICT機器を活用した学習に関する質問についても、特徴的な結果を記しています。

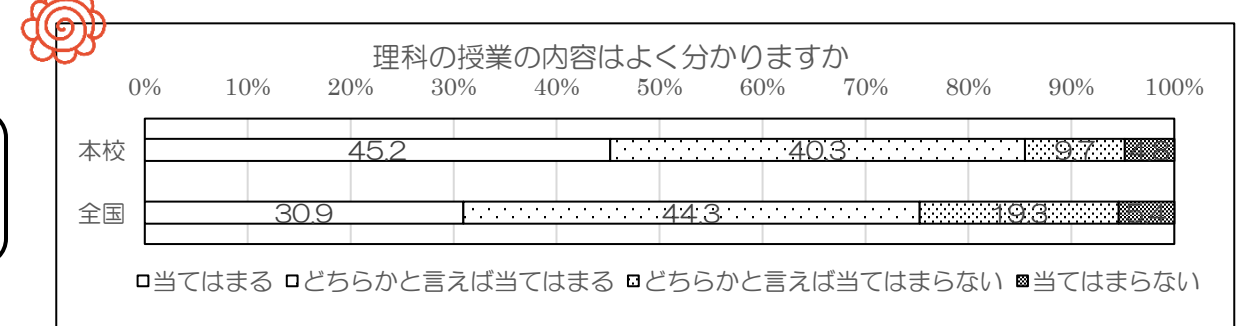
- 国語の勉強は好きですか？ ▼7.0
- 国語の勉強は大切だと思いますか？ ▼4.5
- 国語の授業の内容はよくわかりますか？ △4.3
- 数学の授業は好きですか？ △27.3



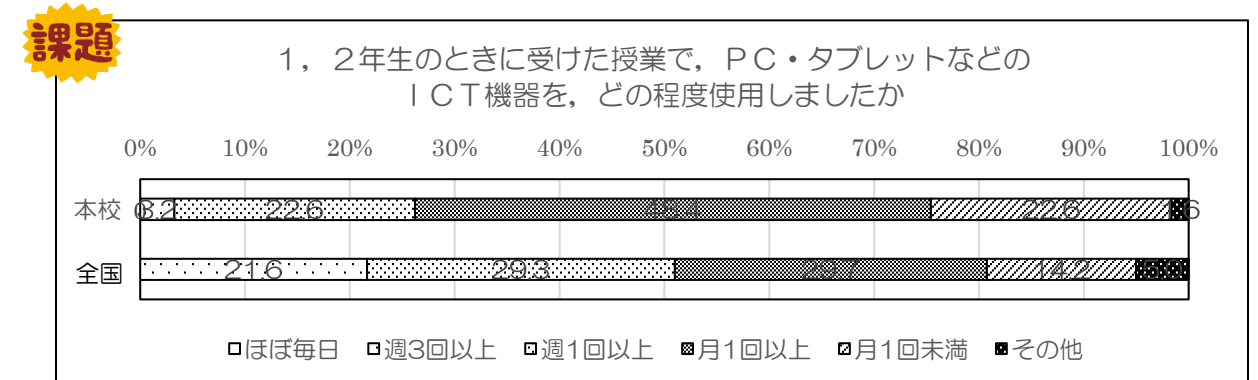
- 数学の勉強は大切だと思いますか？ △3.7
- 数学の授業の内容はよくわかりますか？ △20.6



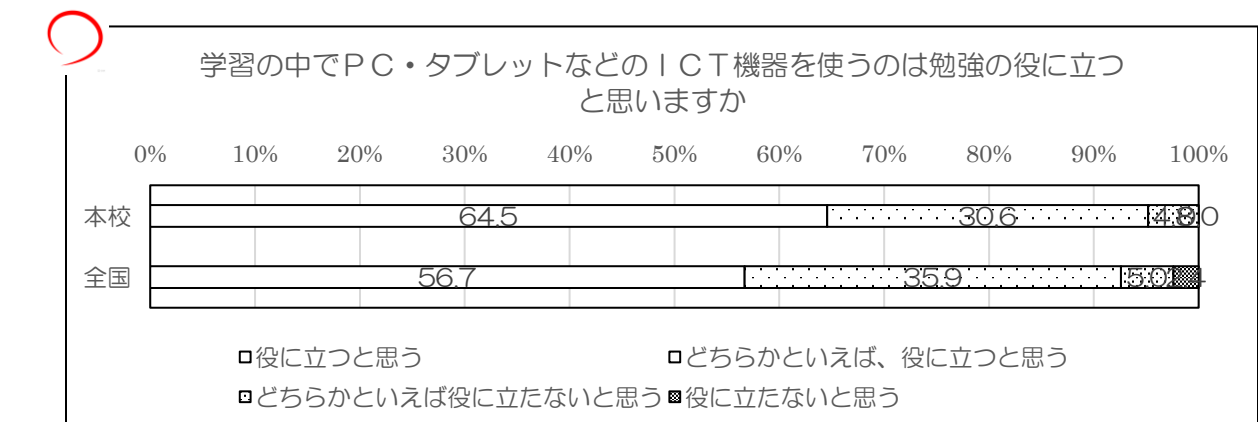
- 理科の授業は好きですか？ ▼9.9
- 理科の勉強は大切だと思いますか？ △3.8
- 理科の授業の内容はよくわかりますか？ △10.5



- 1, 2年生のときに受けた授業で、PC,タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか？



- 学習の中でPC/タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか？ △2.5



<考察>

今年度の学力調査では、数学が全国平均を上回りましたが、国語と理科はほぼ全国平均と同等でした。この結果と対応するかのように「学習に関する興味・関心について」では、数学に

関する興味・関心が非常に高かったです。国語と理科は少し不思議な結果となりました。「教科の勉強が好き」を肯定的に回答した割合はやや低めでしたが、「教科の授業はよくわかる」と肯定的に回答した割合が高く出ました。これは生徒と教員の関係性のよさによるものと考えます。

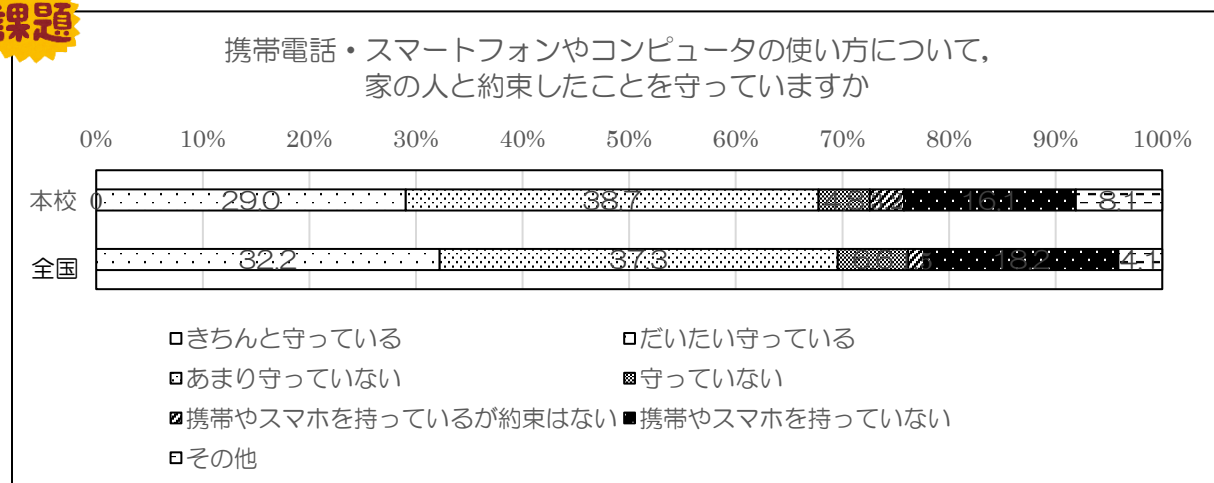
これからも今回の調査対象となった教科に限らず、どの教科も「わかる授業」の創造に向けて今後も努力をしてまいりたいと考えていますが、生徒の興味や関心を引く、「ワクワクするような授業」、生徒自身が授業の中で「わかった」とつかみとるような授業づくりにより精進していかなばと考えています。

PC/タブレットの活用という点では、本町は一人一台タブレットの導入がやや遅れたことが、この結果に影響していると思われる。調査での質問で「1, 2年生のとき」と聞かれているので、使用頻度が低めの結果になったと思われる。しかし、今年度はどの教科も積極的に活用した授業づくりを進めており、一日の中で活用が全くない日はほとんどないような状況です。今後は、多くの生徒が「タブレットなどの活用は、勉強に役立つ」と考えているので、先ほど述べたように、「ワクワクする授業」、生徒がつかみとる授業づくりに、これからもタブレット等を積極的に活用していきたいと思います。

《生活習慣や学習習慣について》

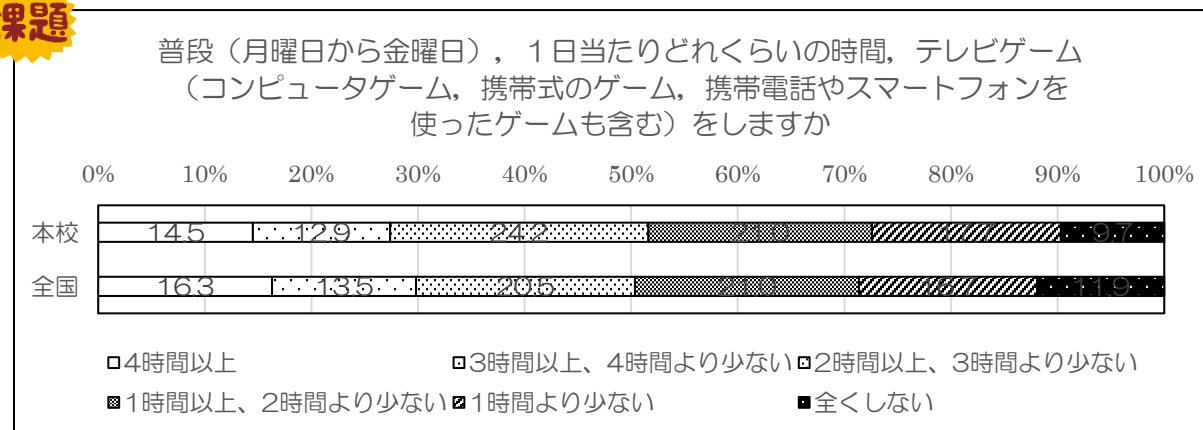
- 朝食を食べていますか？ ▼6.5
- 毎日、同じくらいの時間に寝ていますか？ ▲4.0
- 毎日、同じくらいの時間に起きていますか？ ▲6.2
- 携帯・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか？

課題

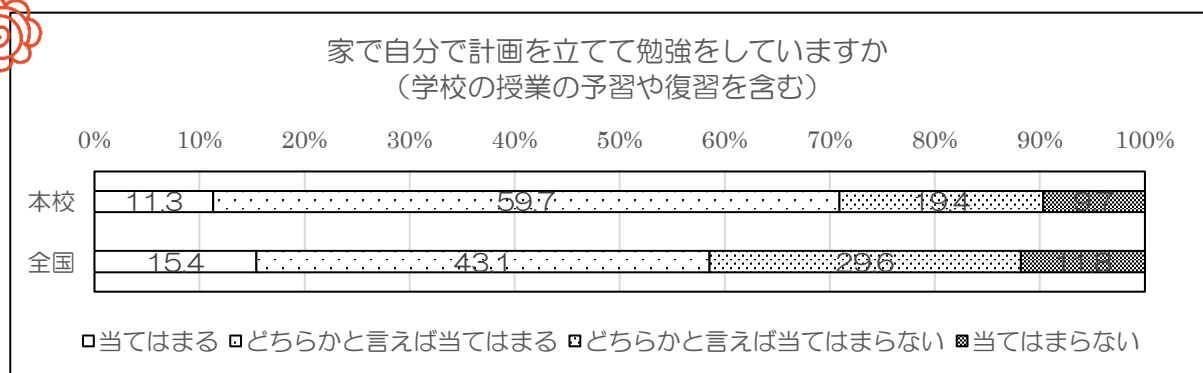


- 普段（月曜から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマホを使ったゲームも含む）をしますか？

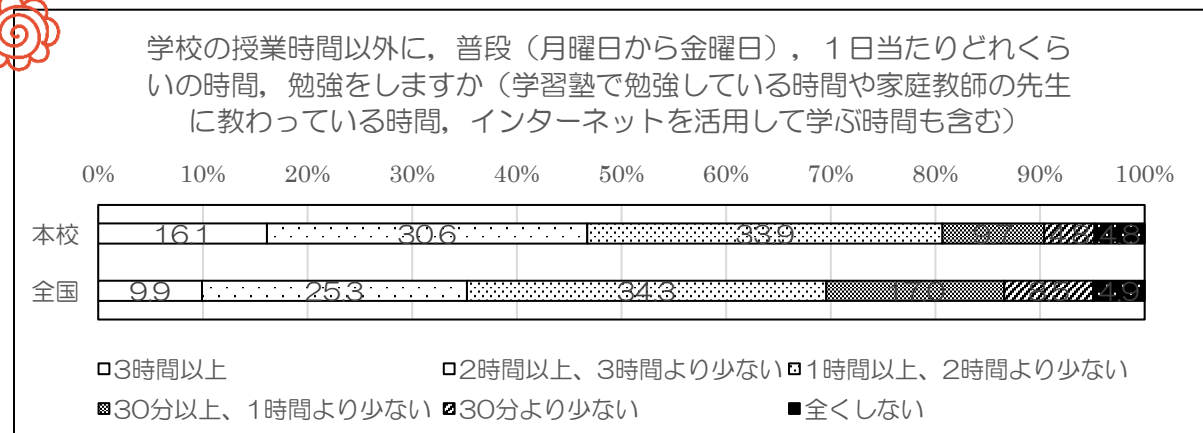
課題



- 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む） ▲12.5



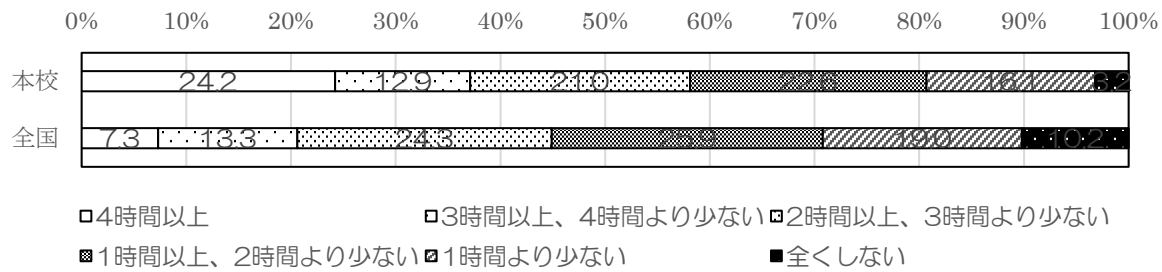
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）？



- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）？



土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



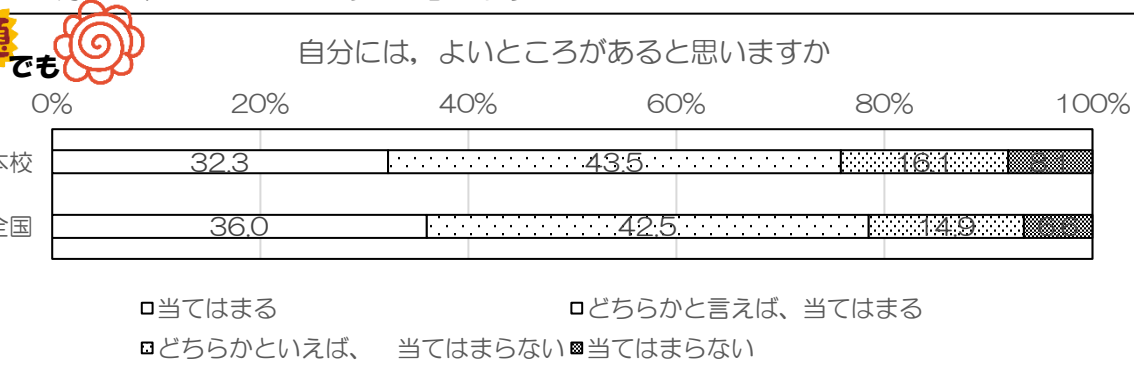
＜考察＞

「生活習慣」においては、時間的な観点で見れば、「寝る時間」「起きる時間」が毎日同じであると答える割合が高く、概ね規則正しい生活ができているように思います。しかし、朝食の喫食率が低めなのが気になります。これは以前からの本校の課題です。朝からの元気、意欲に関係しますので、今後保護者の方々にも協力を呼び掛けたい一つです。そして、今年度も課題として取り上げたいのは、「携帯電話・スマホ」に関してです。現代の子どもたちの世界で心配されている「スマホ依存」や「SNS に関する問題（人間関係のトラブルやいじめ問題など）」ですが、本校においても、今後生徒たちとともにしっかりと考えていきたい課題と捉えています。今回の調査結果でも、家庭における約束が守れているかという点においても、全国と比べてやや低い結果であり、また携帯電話やスマホを利用しているゲームに費やす時間が長めの生徒も多いので、この点についても、保護者の方とも連携しながら考えていきたい課題です。

「学習習慣」については、きちんと計画的に学習を進めている生徒の割合も高く、また学校の授業以外での学習時間もかなり長めです。家庭での支えのもと、学習に取り組む習慣ができていることがわかります。

《規範意識・自己有用感について》

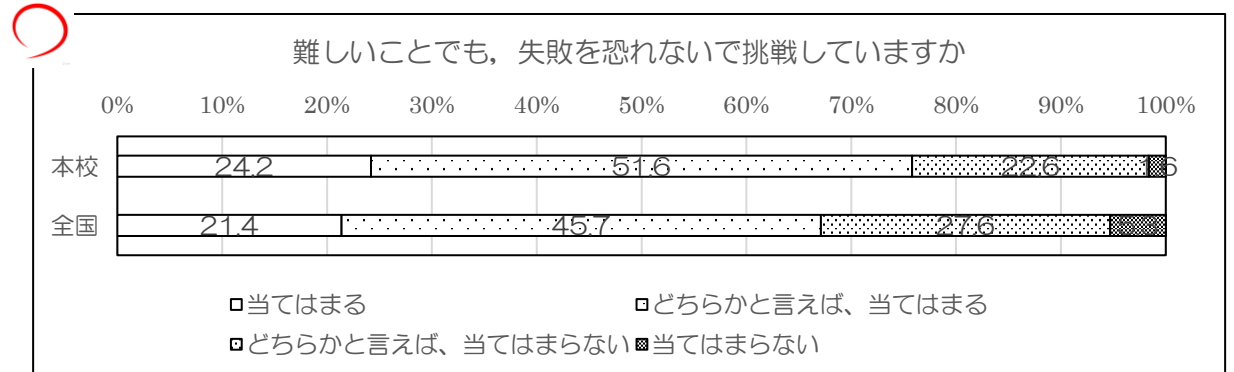
●自分には、よいところがあると思いますか？ ▼2.8



○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか？ ▲8.5

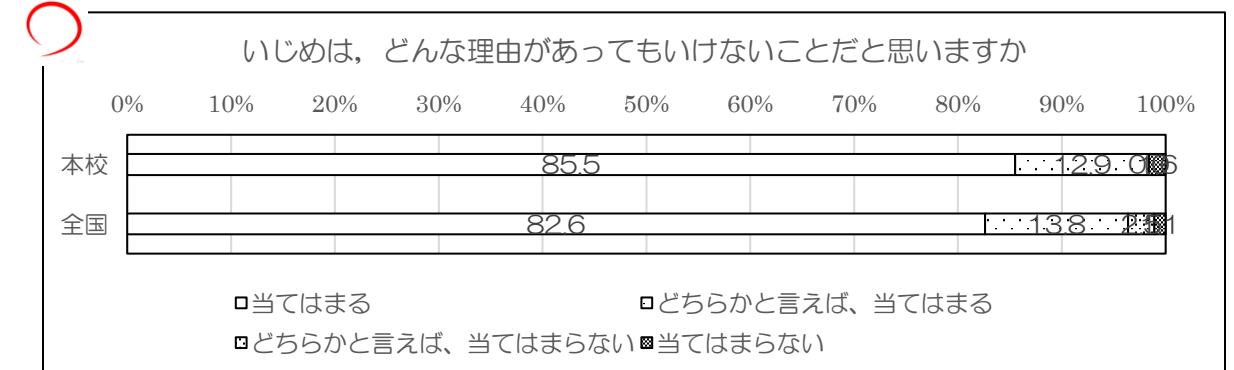
○将来の夢や目標を思っていますか？ ▲0.4

●自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか？ ▼1.1
○難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか？ ▲8.7



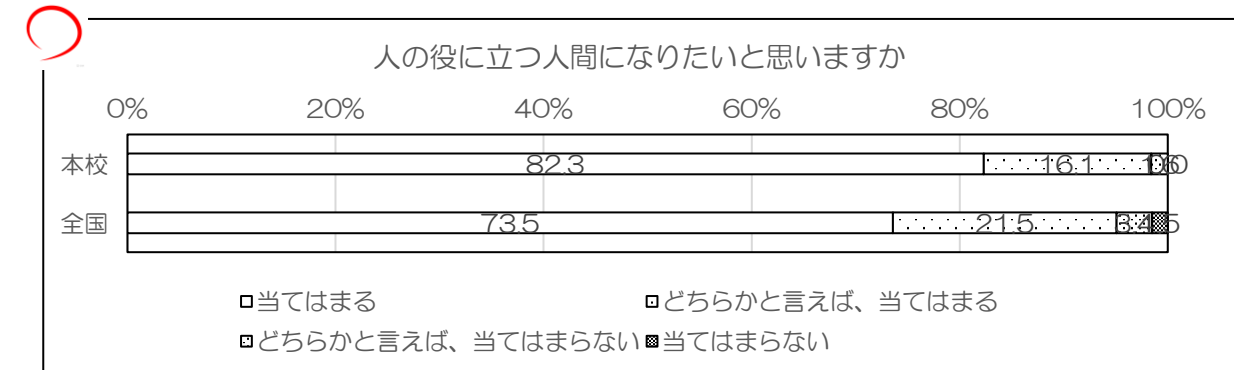
○人が困っているときは、進んで助けていますか？ ▲5.1

○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか？ ▲2.0



○困りごとや不安のある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか？ ▲7.6

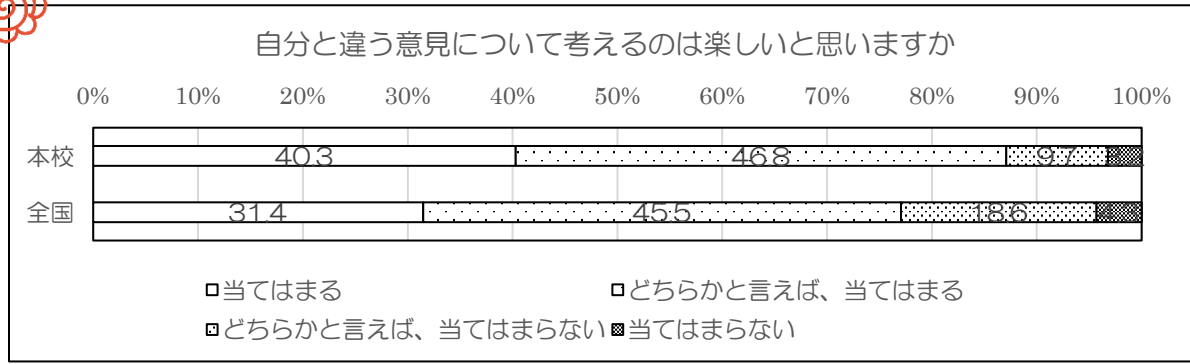
○人の役に立つ人間になりたいと思いますか？ ▲3.4



○学校に行くのは楽しいと思いますか？ ▲4.2

○友達と協力するのは楽しいと思いますか？ ▲1.5

○自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか？ ▲10.2



<考察>

この領域が、昨年度に比べ一番変化がみられる領域です。中でも最も気になっていた「自分には、よいところがあると思いますか」の自己肯定感をストレートに聞く質問では、まだ劣ってはいるもののほぼ全国平均と同等になりました。昨年度は「▼15.3」でしたので、かなりの好変化です。また「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問でも、全国平均を上回りました。「失敗を恐れず挑戦しよう」と生徒たちには事あるごとに呼びかけていますが、「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦していますか」の質問で、全国平均を大きく上回ったのはうれしい結果です。そして、ここ数年「いじめはいけない」の肯定的回答が全国を下回るという点も課題の一つでしたが、今年度は全国を上回りました。

「学校に行くのは楽しい」の肯定的回答も全国より高く、困りごとや不安ごとを先生や学校にいる大人に相談しやすいと回答している率も高いです。加えて困っている人を助けようと考えている割合が高かったり、友達と協力することを楽しいと感じたり、自分と違う意見について考えるのが楽しいと答える割合が非常に高かったりと、良好な学校生活を送ることができている生徒が多いと思われます。

これまで本校の課題が一番表れていたこの領域で、好変化が多くみられました。

《その他について》

「その他」については、学校に関することと本人・家庭に関することに分けて報告します。

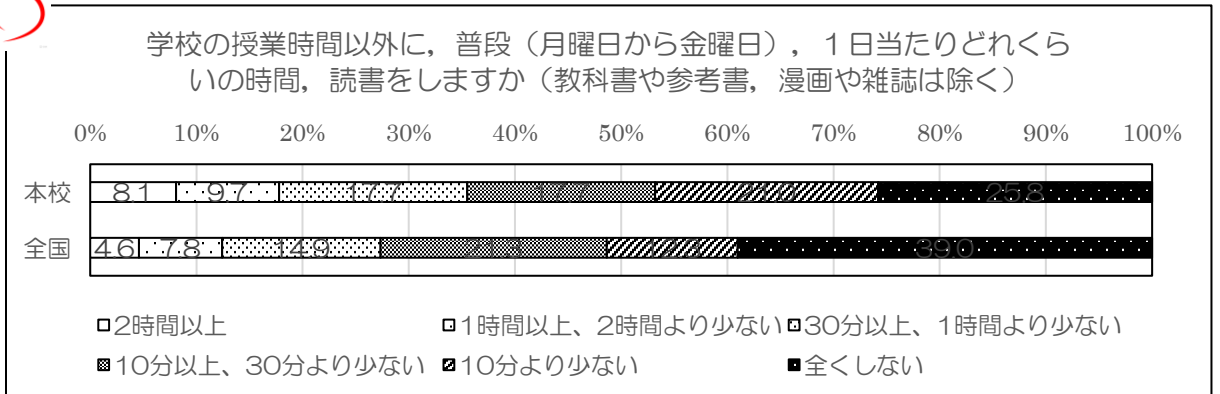
[学校に関すること]

- 1, 2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表していましたか △15.8
- 1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか? △4.7
- 1, 2年生の時に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか? △16.5

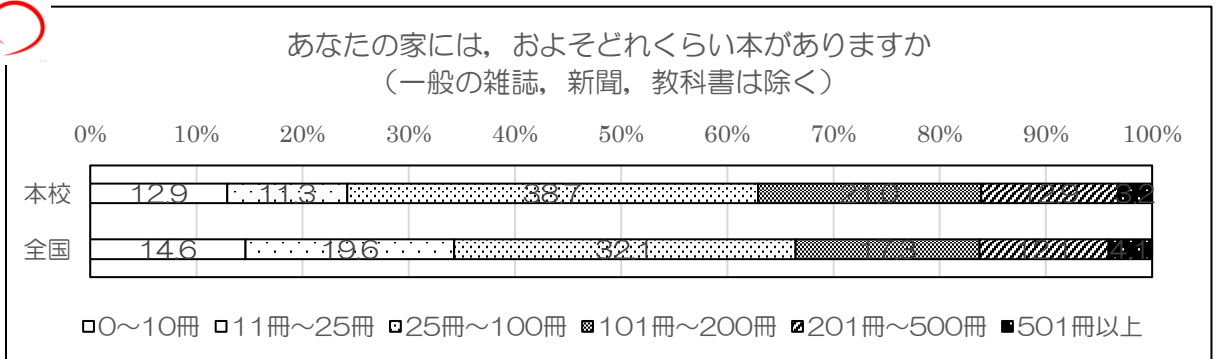
- 1, 2年生のときに受けた授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていましたか? △15.1
- 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか? △10.0
- 総合的な学習の時間では、自分の課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか? △9.5
- あなたの学級では、学究生活をよりよくするために学級活動をしたり、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか? △5.5
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか? △12.2

[本人・家庭に関すること]

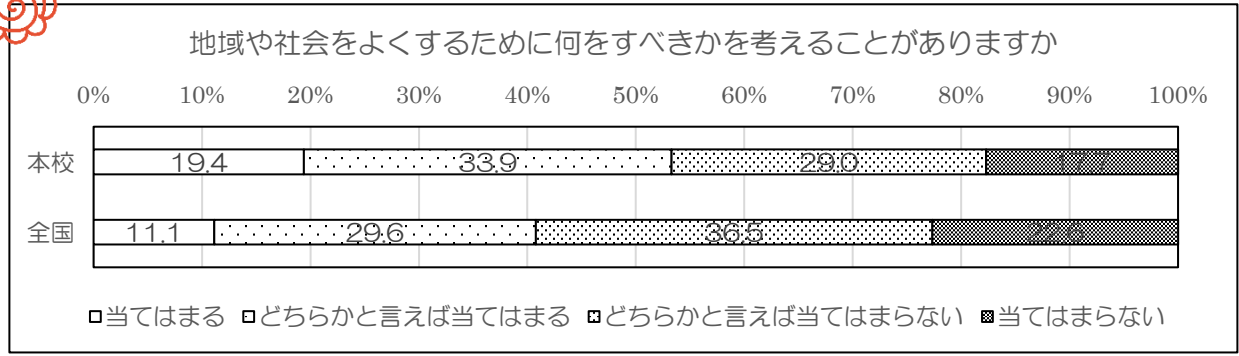
- 読書は好きですか? △7.6
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）? △7.6



- あなたの家には、およそどのくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）?



- 今住んでいる地域の行事に参加していますか? △8.4
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか? △12.6



<考察>

「学校に関すること」については、先に述べた国語、数学、理科の3教科以外の授業においても、話し合い活動など生徒が主体的に取り組む活動が授業の中で多く組み込まれ、その中で生徒たちは思考をめぐらし、自分の考えを持ちたり、その考えを伝えたり発表したりという活動を前向きにやっているようです。特に自分の考えをまとめ、工夫して発表するといったことができているように思われます。また、総合的な学習の時間でも、その学習の意味を理解し、受け身になることなく課題解決に向けて調べたり、これまでの学習で学んだことを関連させて考えを深めたりするなど、意欲的に取り組んでいるのがうかがえます。

そして、「本人・家庭に関すること」でまず注目したいのは読書環境です。携帯電話やスマホの影響もあり、昨今子どもたちの読書離れが言われていますが、本校は読書に親しむ生徒が全国に比べて多いように思います。それには家庭環境も大きく影響しているようで、全国に比べても家庭にある本の冊数が多い傾向が出ています。この家庭環境と本校生徒の学習習慣とは大いに関係していると思われる。

加えてうれしいことに、地域の行事に参加している割合も高く、日頃から地域や社会のことを考えている生徒も多いようです。自分たちの町を愛し、誇りに思う生徒を、地域の方々とも連携しながら、今後も育てていきたいです。

(5)最後に

今年度は、学力調査では本校のこれからの課題がクローズアップされてきました。本校だけでなく、吉川中学校区の課題と考えます。以前から「吉中生はよく勉強ができる」といわれてきました。これまでの学力調査でも、全国平均をはるかに上回る状況が続いてきました。しかし今年度は全国とほぼ同等という結果になりました。これは現3年生だけの課題ではなく、下学年や小学生の状況を見ても、この厳しい傾向が続きそうな状況です。これまで「教育の町 とよの」を掲げてきた本町として、大きな危機感を感じなければなりません。そこには学習状況調査（生徒質問紙）の結果にもあったように、スマホ・携帯電話の使い方の問題などもあると思います。しかし、学校としてはこの結果を重大に受け止め、これまで以上に授業改善に努める必要性を感じています。支援教育のあり方も来年度から少し変わっていく中、どの生徒にも「わかる授業」の創造に向けて、努力を重ねていく所存です。

学力面では課題が浮き彫りとなった今回の調査でしたが、学習状況調査（生徒質問紙）ではうれしい結果が多くありました。特に自己有用感、自己肯定感が高まってきていることや、何事にも挑戦する意欲などが高まっているのはうれしいことです。規範意識や生活習慣でも良好な結果です。また生徒たちの学習に臨む姿勢はよく、何事にも前向きに取り組もうとしています。子どもたちの自主性や自分らしく頑張る意欲などは着実に上昇してきていると感じています。「笑顔で会える学校」にむけて、少しずつ前進していると感じています。これからも生徒たちを信じ、生徒たちの可能性を伸ばすことに尽力していきたいと思えます。

今後、この結果を大切に受け止め、生徒たちのさらなる成長に向けて、全教職員で精進してまいります。生徒たちの成長には、保護者のみなさんのご理解とご協力が不可欠です。今後も学校からは積極的に保護者のみなさんに向け、情報を発信してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

令和4年度全国学力・学習状況調査の問題等については、国立教育政策研究所のホームページ (<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>) に掲載されていますので、そちらをご覧ください。

町全体の分析結果については、町ホームページに掲載されています。